

オリンダ通信

「小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会」会報

第6号

共同代表: 松本敏之、大倉一郎
 事務局: 横浜港南台教会 秋吉隆雄
 〒234-0054 横浜市港南区港南台 7-8-29
 Tel 045-833-5323 Fax 045-833-6616
 郵便振替口座番号: 00210-2-97571

夜明けを待つところで一詩編 130

小井沼眞樹子

★助走期間

レシーフェ/オリンダに赴任して、3年目の後半を過ごしています。多くの方々のお祈りとご支援に守られながら、心身の健康もほぼ回復して元気になりました。感謝しつつ、まずそのことをお知らせしたいと思います。

振り返って、この初めの3年間は助走期間だったという思いでいます。多くの不自由に取り囲まれながら、忍耐して現実の中に身を置き、一足一足、歩いてきました。

1年目は言葉の理解、文化や生活習慣、気候、食べ物に慣れること、異国に日本人として一人で生活することが、何といても大きな課題でした。アルト教会の人々が温かく迎え入れてくださったので、わからないながらも「神の家族」と共にある安心感の中で過ごせたと思います。イエズス会の神父や青年たちとの交友にも大変支えられました。

2年目になり、教会学校のある少年の窮地に接したのがきっかけで、彼を救い出したい一心でレシーフェに引越。もう一人の青年も加えて共同生活が始まりました。そこから予想外の困難の連続で、体調を崩してしまいました。ここで、外地にいる宣教師は自分の心身の限界というものを見極めなければいけないことを学びました。「他者をケアする人は、まず自分自身をよくケアしなければいけない」と友人神父から諭されました。

今年の初めから、礼拝説教などの仕事をいっさい止めて休養することを余儀なくされ、加えてしつこい皮膚疾患に悩まされ、6-7月に一時帰国し、検査入院して病名を突き止めた次第です。加齢に伴う慢性的な疾患で完治しないとのこと。

けれども、幸いなことに、ブラジルに戻ってから心身ともに病状は快方に向かい、まだ無理は禁物ですが、8月から少しずつ仕事に復帰しています。

また7月末から、ミゲル神父の姪で、働きながら夜学で服飾デザインを勉強している娘さんと一緒に住むようになり、共同生活も今度はいまやっています。

★地域の中へ

8月（ブラジルの後期）から毎週水曜日の朝、教会隣接の保育園で、子どもたちと職員のために短い聖書の時間を担当することになりました。最後に毎回ヴァイオリンの小曲を演奏するので、子どもたちはとても楽しみにしています。



この奉仕をするために、火曜日の夜に保育園の厨房で働いている教会員Nさんの家に一泊します。火曜に祈禱会に参加して帰宅すると夜10時過ぎ、翌朝また6時半に家を出るのでは体力的にきついので宿をお借りすることに。この宿泊によって、地区の教会員の現実の生活を知るとも貴重な体験をしています。Nさんは夫と下の息子夫妻、孫（8ヶ月）といっしょに質素な家に住んでいますが、とても家族の絆が強く、仲良く暮らしています。外から眺めているだけでは知りえない状況ですが家族一同、こころを込めて迎え入れてくださいます。私は安心してお世話になり、そのお礼に彼らが必要なものを差し入れ、この助け合いの関係を喜んでいきます。

また、一昨年、Nさんとペアで地区を訪問伝道したときに、道のひどく悪い坂の下の家で若い女性が閉じこもって、何の交わりもなく孤立していることを知りました。私の不調が続いていたのでその後訪問できず、いつも気にかかっていたのですが、最近、やっとNさんとこの娘さんの家を再訪することができました。折り紙の組み立て作品の本を見せたらとても興味を持ち、習い始め、次はいつ来てくれるの？と待ち焦がれています。日曜日の午後に定期訪問をしています。このようにして、3年目の終わりころになってようやくアルト・ダ・ボン

ダーデ地区の中に足を踏み入れられるようになり、歩いている途中で「パストーラ（牧師）！」とか「マキーク！」と声を掛けられると、やっと宣教師として認知されてきたと嬉しくなります。

悪路をNさんがいつも付き添ってくださり、迷える牧師を羊が守っているから安心だね、と笑います。

★クレシェ・ジェンチ・ノーバ（保育園「新しい人々」）

アルト教会が創設される以前に、創立者ダヴィ牧師は、社会奉仕の一環として保育園を始めたと聞いています。1987年のことでした。当初、教会はこの保育園の一室を借りて礼拝を守っていたそうです。

保育園には現在92名の登録があり、2歳から6歳までの子どもが無料で保育を受けられます。4歳と5歳のクラスはオリンダ市から教師が派遣されてきて、幼児教育をやっています。けれども親が幼児教育に不熱心で、実際、保育園に連れられてくるのは午前から夕方までの子どもが30名足らず、午後からくる子どもが20名弱。家庭ではあまり子どもの世話をせず、なかには虐待さえ起こっているケースがあるようです。

市は職員や教師を契約で派遣してきますが、契約切れで人員を解雇しても次の派遣が遅れるので、保育園はいつも人手不足、園長も総動員で、歯磨き、シャワー、食事、昼寝と、怒鳴るような声で子どもの世話を当たっています。なんと日本とは違う環境でしょう。遊具は一つだけ市から支給されたものが庭にあるだけですが、ほとんど、子どもたちが外で遊んでいる姿を見たことがありません。檻の中に閉じ込められたような園生活にため息をついてしまいます。それでも、子どもたちが人なつこく、生き生きした表情で元気に遊んでいるのを見るとほっとしますが。



の夢でした。この土地はもともと教会の所有地だったのですが、保育園の運営も土地の権利も、現在はノルデステ教区の管轄になっていて、この地区と直接関わりのない女性牧師が建設責任者となり、事実上、何年も棚上げ状態が続いていました。

昨年来、私は少しずつ彼女を励まし、今年の初めから、イヴァン牧師、保育園の運営責任者と私、もう一人の牧師を含む5名の建設運営委員会を構成し、具体的に相談が始まりました。しかし、いろいろ複雑な手続きがあるのか、物事の運び具合が超スローテンポで、日本人の感覚では信じられないほどです。自分ばかり勇み足をして仕方がないので、現地の事情に則してじっと忍耐し、待つばかりです。なんとまあ、忍耐力だけは大きく育ったことか！「愛は忍耐強い」（1コリ13：4）

7月半ばに12名のボランティアチームがアメリカ、バージニア・メソジスト教会から送られてきたのですが、その前に整地と基礎工事しておくべきだったところを、まったくなにもしなかったので、結局そのグループは現在の保育園の施設のペンキ塗りをするだけの奉仕で、少しばかりの献金を置いて帰っていきました。ただ、今後の計画について説明し、地区の現実の状況を見てもらったことは評価できると思います。来年も、グループを送ってくれることを約束してくれました。

そのような経緯で、よりよく地域の子どもたちとその家庭の実情を知り、センター建設に協力するために私も8月から保育園の奉仕を始めたのです。

子どもも大人も貧困と家庭文化の欠損、非人間的状況のなかで、一生懸命その日、その日を生きています。しかし、麻薬、犯罪、虐待など不幸な出来事も多発しています。なんとか新しい幼児教育施設を建設し、併せて地域の家庭生活の改善、支援活動もしたい、若者には能力開発の機会を与えたい。コミュニティー・センターとアルト教会を拠点として、福音を述べ伝えると同時に信仰を実践したいと、いつも皆で祈り願っています。



★コミュニティー・センター建設計画

教会に隣接する土地にコミュニティー・センターとして新しい保育園を建設することが、アルト教会の長い間



★教会の24周年創立感謝礼拝

アルト・ダ・ボンダーデ教会の必要のために音楽献金と施設献金を日本とサンパウロの教会関係の方々に呼びかけて、沢山の方々からご協力いただきました。感謝です！その成果が現在目に見える形で現れてきて、多くの新しい青年が教会に集うようになりました。礼拝はギターとドラムの音響のもとで元気あふれる賛美の歌声とダンス、証しなどによって構成され、説教も牧師以外に信徒たちが担当しています。

去る9月24日、25日の2日間、教会の24周年創立感謝礼拝を行いました。床のタイルを張り替え、屋根の修理、外の塀の塗り替えを無事に果たし、綺麗にデコレーションをして、多くの人たちと感謝と喜びにあふれた祝祭をすることができました。礼拝の中で音楽教室でギターとドラムを習っている生徒たちの演奏もありました。



その日に先立って5名の洗礼と7名の転入会があり、合計12名の若い会員が新たに加えられ、教会は活気にあふれています。

また、創立感謝礼拝でヴァイオリンの奉仕をしたのですが、最後に後奏として「浜辺の歌」を弾く前に、日

本の地震と津波、放射能汚染でいまだに多くの人々が避難所生活を強いられ、また孤児になった子供たちも多くいることを話し、日本で苦しんでいる人たちを覚えて皆で心を合わせて祈るときを持ちました。ささやかでもこのように地球の両側がつながるひとときが成立し、橋渡しをする喜びで心満たされたことでした。

★第2期（3年間）への更新について

去る10月20日にメソジスト教会ノルデスチ教区の監督（ビスパ・マリーザ）と個人面談しました。



来年2月末に任期が終ること、この任期中に実践した宣教奉仕に対するイヴァン牧師の評価と自己評価を伝え、任期更新の希望を話す

と彼女はとても肯定的に受け止め、次期への更新に個人的に同意してくださいました。あとは、ブラジル・メソジスト教会と日本基督教団の間で、公式の書面を取り交わすことが残っています。「共に歩む会」の事務局長の秋吉牧師にも、次期も続投していただけると了承を得ましたのでとても心強く思っています。正式に派遣が決定するのは来年早々でしょう。

第2期を始める前に、来年3月—6月、報告と交流、休養、所用のために4か月間日本に滞在する予定です。次の任期は2012年7月から2015年6月末までを予定しています。

音楽献金へご協力を

今年は施設献金として皆さんからのご協力を頂き、その成果が教会活動の活発化を促進しています。多額の施設献金を受領しましたが、アルト教会への補修献金とコミュニティー・センター献金に二分して捧げました。感謝いたします。

音楽活動も発展して、現在3名の講師がギター、ドラム、エレクトーンのクラスを受け持ち、17名の生徒たち（11—47歳）が習っています。その運営費用はすべて、皆さんからの献金で賄われています。来年6月で音楽基金が底をつくので、再び献金目的を音楽活動へ戻したいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

なお、コミュニティー・センター建設への募金活動は、もう少し計画が進展するまで先延ばしし、また改めて行うことにしました。どうぞご了承ください。

「小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会」会計報告 (2011. 4. 1～10. 31)

収 入

支 出

項 目	金 額	項 目	累 計
会費・特別献金		支援金(通常)	
音楽・施設献金		支援金(音楽・施設)	
利息		海外保険	
		「福音と世界」	
		事務費	
		振込手数料	
		会堂使用料	
		集会費	
小 計		小 計	
前年度繰越金(通常)		次月へ繰越(通常)	
前年度繰越金(音楽・施設)		次月へ繰越(音楽・施設)	
合 計		合 計	

年会費・特別献金者名 (敬称略・順不同)

(76 件)

音楽・施設献金者名

(24 件)

会計：K.Y



編 集 後 記

事務局 秋吉隆雄

「オランダ通信－第6号」をお届けいたします。眞樹子師がオランダの「アルト・ダ・ボンダーデ教会」に宣教師として赴任して3年が経ちます。助走期間であった第1期が終わることになります。「オランダ通信」を毎年2回出してきましたので、お働きについてはご承知のことと思います。2期目の更新が承認、決定することになるでしょう。

文化や生活習慣や気候が違う異文化の中で、日本語を話す機会のない一人暮らしの生活は大きな忍耐が求めら

れると推察いたします。体調を崩されたこともありましたが、回復し、お元気に活躍しておられることを嬉しく思っています。

眞樹子師は明るさをもって常に前向きに生きておられます。その人柄と姿勢が、当地の教会員に親しまれ、楽しい交わりを作ってきました。帰国された時に「宣教報告会」を予定しています。2期目のお働きが更に祝されますようにお祈りくださり、また「音楽献金」にご協力ください。ご支援してくださる皆さまの上に主イエスの祝福を祈ります。